

県民との意見交換実施結果

2024年11月

長野県 企画振興部 総合政策課

I 意見交換での主な意見

戦略策定にあたり、現在の状況や今後の長野県のあり方について声を伺うため、県民をはじめ長野県に縁がある方々と意見交換を実施。

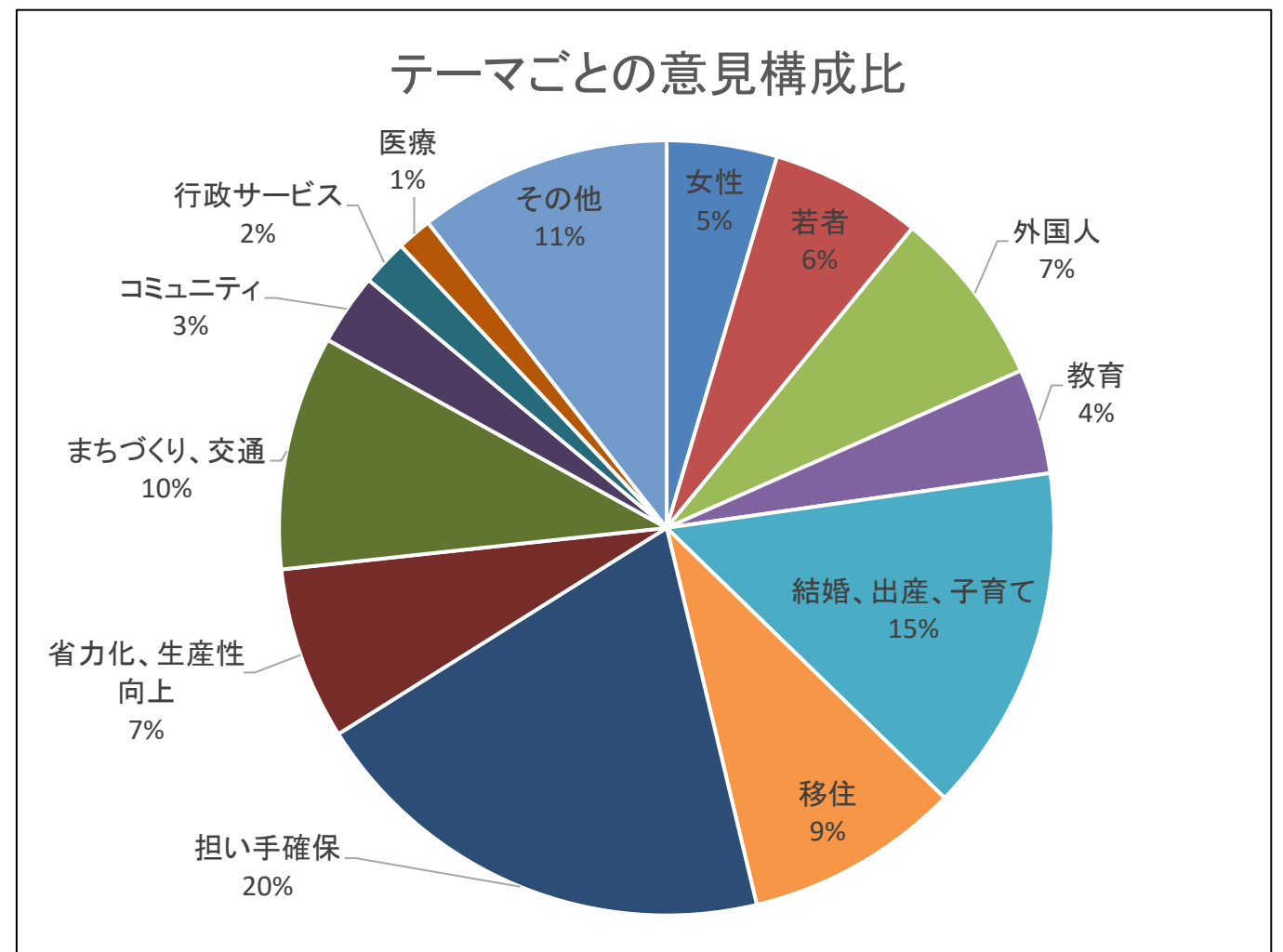
【対象者】県内在住者（学生、若者、女性など）
各種団体
企業関係者 など

【期 間】令和6年4月から11月

【回 数】149回

【意見数】1,913件

【参加人数】2,872人



I 意見交換での主な意見

テーマ：女性

- 女性リーダーの登用やロールモデルの広報、経営層の意識改革によるダイバーシティ推進など、女性が活躍して輝ける社会の実現
- 「男性は仕事、女性は家庭」といった職場や地域社会での「固定的な性別役割分担意識」を払拭する必要
- 男女ともライフステージや自分の価値観に応じた柔軟な働き方や自由な生き方ができることが重要
- 共働きを前提とした男性の家事参加促進や、キャリアと子育てを両立できるワークライフバランスの実現

テーマ：外国人

- 外国人やその子どもへの日本語や生活ルールの教育だけでなく、日本人の多文化共生教育や異文化理解が重要
- 多言語表示や窓口対応のほか、臆せず日本語で話しかけるなど、企業・行政・地域が一体となって外国人も暮らしやすいよう配慮することが必要
- 外国人の就労受入れや地域活動にあたり、法改正等による制度改革が必要

テーマ：若者

- 年功序列や地域活動の負担の見直しなど、職場や地域における「固定的な年齢別役割分担意識」の払拭
- 場所や時間に捉われない柔軟な働き方の実現や所得向上が必要
- 大手企業の誘致や働く場所の充実、起業支援など、若者の挑戦の応援
- 都会での生活に慣れると、交通の利便性や固定的な人間関係が不安で戻る気になれない
- 若者の社会参画を進めるため、被選挙権年齢の引き下げ、ユースセンターや若者協議会をつくることなどが必要

テーマ：教育

- 地元の魅力や企業を知り、価値を認識する教育を行うべき。小中学校からのキャリア教育も重要
- 授業料の無償化、奨学金制度の充実
- 子どもの自由な発想や表現、主体性を重視する個別最適な学びや、自然の中での教育、自由進度、異年齢など特色ある学びを推進する
- 地域との交流が盛んな開かれた学校を目指し、社会全体で子育てを行う必要がある
- 大学間の連携やバーチャル大学など選択肢を充実、再挑戦学校など、年齢・金銭・住む場所に関係ない学びの保障を行うべき

I 意見交換での主な意見

テーマ：結婚、出産、子育て

- 地域を越えた出会いの機会の創出や、婚活イベントに気軽に参加できる工夫が必要
- 気兼ねなく育休を取れるよう、同僚も含めた支援が必要
- 一番忙しい夕方の育児に加わるため、父親が早く帰宅できるよう企業の協力が必要
- 人口減少時代だからこそ子ども施策にお金をかけ、子どもと楽しめる屋内外の施設といった整備を進めることが必要

テーマ：担い手確保

- 雇用形態の多様化、共同研修や人材シェアの推進、リスキング、若者の職場確保、シニア世代の活躍などが必要
- 地域社会や医療・介護・農業・製造業など様々な分野で外国人の活躍が不可欠になるため、外国人材を支援する仕組みが必要
- 若者の定着を図るため、地域や企業の魅力の積極的な発信や専門学校等の整備
- 働く意欲のあるシニア世代の希望に応じて働くことができるよう、柔軟な働き方の実現が必要

テーマ：移住

- 豊かな自然や首都圏へのアクセスの良さなど、長野県の強みを活かした施策や、仕事や移住先の暮らしを具体的にイメージできる情報の充実
- 定住促進住宅の整備や空き家の活用など、移住希望者の選択肢を増やす必要
- 移住者を地域で受け入れる態勢づくりや、地域イベントやお祭りなど多世代が交流できる環境づくり

テーマ：省力化、生産性向上

- 労働需要を抑制するため、業務の見直しによる効率化や省力化、ロボットによる自動化、AIやICTの活用を積極的に進める必要
- 中小企業は単独でのシステム構築が難しいため、地域ごと共通のプラットフォーム（総務・経理など）で生産性向上できるのでは
- 国内は経済成長の鈍化や購買力の低下が予想されるが、海外への積極展開等、地域外の活力を取り込んでいく必要

I 意見交換での主な意見

テーマ：まちづくり、交通

- 若者が魅力を感じる娯楽施設や子育て世代が過ごせる大型商業施設などを整備し、魅力のあるまちづくりを行う必要がある
- 中山間地域が多いが、今後公共サービスを維持するためにはコンパクトシティ化を進めるべき
- 子どもや高齢者を含め、誰もが県内を自由に移動できるよう地域公共交通の充実を図ることが必要
- バスやタクシーなど地域交通の自動運転化、ドローン配送等の新技術の活用

テーマ：行政サービス

- 業務のオンライン、ペーパーレス等のデジタル化を推進し業務の効率化を図ることが必要
- 人口減少社会を見据え、サービスを維持するために何が必要なのか、行政、企業、県民が意識を共有することが必要

テーマ：コミュニティ

- 移住者や若者を呼びこむため、セミナー等を通じて人の魅力を高めるなど、地域側の魅力を高める取組が必要
- 若者が地域と関わる機会をつくって魅力を感じてもらい、地元定着や活性化につなげることが必要
- 地域の資源、魅力の再発見のためにも、地域特有の体験やイベントの企画が必要
- 高齢化が進む中で、世代を超えたつながりや地域コミュニティが形成されるとよい

テーマ：医療

- 病院側の負担軽減を図るため、患者側の上手な医療のかかり方や生活習慣病の予防意識が必要
- 高齢者の増加を見据えて介護施設・在宅医療の充実や、出産・育児・暮らしに不安を感じないよう医療・社会福祉の偏在見直しが必要
- 総合診療医の活躍の場の拡大やキャリアを積める職場、人材育成が必要

II HOPE2050

1 概要

2050年には長野県の総人口は2020年の約77%の159万人、高齢化率40%以上と推計され、社会インフラの維持困難等の課題が今後さらに顕在化することが予想される。
このような社会における「ありたい未来像」と「今の課題」について語り合う県民対話を実施。

2 実施状況

(1) 実施日・実施会場

5/27長野県立大学、6/17信州大学、7/27長野大学、9/3飯田短期大学

(2) 参加人数

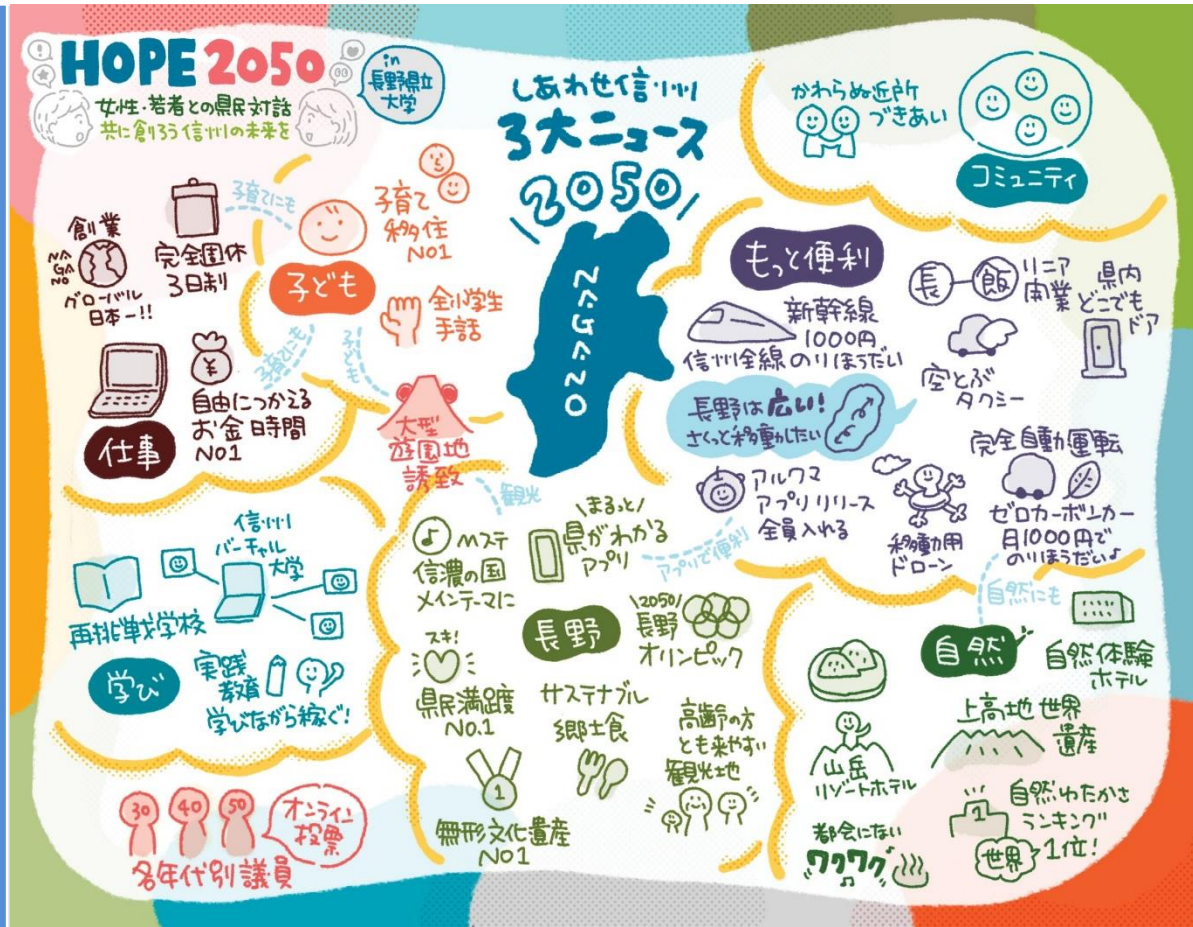
総勢147人の方が参加（39歳以下の方（中学生以下は除く））

3 主な意見

- ▶ ライフステージや自分の価値観に応じた柔軟な働き方ができることが重要
- ▶ 都会に負けない娯楽や遊べる場所がある魅力的なまちづくりをしてほしい
- ▶ 公共交通をはじめとした移動の不便さを解消してほしい
- ▶ 自由な生き方や個々の価値観が認められる地域が望ましい
- ▶ 自然を守るためには、自然を遊び場として活用することが重要。また、自然の中で過ごすことで、心にゆとりが生まれ、人とのつながりも深まる
- ▶ AIを活用して、交通の便が悪い地域でも宅配サービスや移動販売を効率的に行うことができ、どこに住んでいても誰も困らない社会を実現してほしい

II HOPE2050

長野県立大学



信州大学



II HOPE2050

長野大学



飯田短期大学



Ⅲ 県ホームページから募集した戦略骨子案への意見

1 概要

【募集期間】 令和6年9月20日（金）～令和6年10月31日（木）

【回答方法】 専用意見フォーム、郵送、ファクシミリ

【回答状況】 県内男女（10代～60代） 計23人

2 主な意見

- 価値観の転換を図るために「豊か」「楽しく快適な」だけでなく、「みんなが少しずつ我慢する」という表現も必要。
- 若者同士のつながりができるコミュニティづくりや既存イベントの開催頻度・参加枠を増やすべき。
- 地域の利便性向上や県外から人を呼び込むために鉄道の活性化を図るべき。（路線・本数の増、交通系ICカードの導入、駅及び駅周辺環境整備等）
- 各ターゲット（ファミリー層、シングル層、Uターン希望者等）に向け、個別具体的な施策の実施や情報発信を行うべき。
- 結論ありきの議論を行わず、一度決めた方針でも都度見直しを行う。実施に当たっては、各々が自分の立場や役割を把握し、責任感も持って取り組むべき。